あおって出る不利がありながらじりじりと追いあげ、直線でねばるグレートリキを抑えての勝ちっぷりは、早くから評判されただけのものがあった。血統も父トサミドリ、母ミゴレットと一本筋の通ったものを持っているので、その後伝貧騒ぎでレースを遠去かってはいるが、復調さえすればあるいは最右翼的な存在といえるかもしれない。馬格もしっかりしたものを持っているし、期待してみたい。

タマフジ（父エパレット、母ペルシアンゴールド）は七中の新馬である。好スタートして出て、そのままヒロヨシを9馬身差にふり切った勝ちっぷりは堂々たるものだった。直線では初レースらしい動きをみせて、ひよろひよろしていたが、使い込まれてくれば大物となるであらう素質十分なものをうかがわせた。その後、笹針治療をやるために休養に入っているが、一日も早く競馬場に姿をみせてくれることを望まれる。

メジロサンマン（父シヤローロッテスヴイル、母パラデイシア）**メジロカツザン**（父パレスタイン、母マーシユメドウ）はともに一東の新馬である。メジロカツザンは直線で伸び、メジロサンマンは一気の逃げ切りと、レースぶりは違っていたが勝ちっぷりはともによかった。なかでも早くから仕上りをみせていたメジロカツザンはスピード的にもみるべきものがあった。

このほかでは一戦ごとに充実を示してきた**マナメント**（父チヤイナロック、母グリーンライト）が差し脚のよさと堅実なレースぶりから注目されるが、未出走組にも**アメリカンボーイ**（父エパレット、母パンアメリカン）**アリオンワード**（父アリサイド、母フアンタシイ）**オベデインエンス**（父ズクロ、サンドア）**タイホーザン**（父ヒンドスタン、母トキノタカラ）**ズイリニウ**（父ゲイタイム、母ロイヤルデイール）などの優駿が残っているので、牡馬陣も牝馬同様に今後に待たれるものが多いかもしれない。

（内外タイムス・**清水　昇**）

≪昭和40年度フリーハンデキヤップ≫

（本会ハンデキヤップパーによる）

関西 馬名	重量
三　歳	kg
アポオンワード	55
ニホンピローエース	55
ソロモン	53
テイトオー	53
ヤマニリユウ	53
リユウフアーロス	53
キヨウエイヒカリ	52
ブルーダイヤ	52
ケーブルオー	51
タイシユウ	51
ダニノヒカリ	51
ウインジエスト	50
カリムスタア	50
サンバースト	50
チトセヒジリ	50
チトセブラツド	50
トツププラツシー	50
ハードイツト	50
モンターフオード	50
リユウミゴリ	50
四　歳	
ダイコーター	63
キーストン	62
チトセオー	59
ハツライオー	57
キヨウエイホマレ	56
タニノライジングス	56
ゴールデンパス	55
チトセドラゴン	55
タイクラナ	54
リユウドルガ	54
アマゾンノソラ	53
シードラゴン	53
ハチクラマ	52
アストウエー	51
エイトクラウン	51
エプソム	50
ダイアン	50
タイクーン	50
ニユーパワー	50
パワーラツスル	50
五歳以上	
シンザン	67
ヒカルポーラ	62
バリモスニセイ	61
パスポート	59
コウタロー	57
オーヒメ	55
アスカ	54
オンワードセカンド	54
ヤマヒロ	54
ヒノデキング	53
ガルカチドリ	51
ロードホープ	50

関東 馬名	重量
三　歳	kg
メジロボサツ	55
セイブオー	54
タマシユウホウ	54
ハーバーホープ	54
ヒロイサミ	54
アサナミ	53
タカトキ	53
ハイアデス	53
マナメント	53
メジロマジヨルカ	53
カブトザン	52
スピードシンボリ	52
ナスノタイム	52
スイフトヒメ	51
アサフミ	50
シゲハヤテ	50
スガフレツクス	50
スポートターフ	50
テルギク	50
フエアトラツク	50
四　歳	
カブトシロー	58
コレヒデ	57
キクノスズラン	57
キヨカミ	57
ブツシヤン	56
アオバ	55
カワサキオー	55
クリデイ	55
ヒガシソネラオー	55
ベロナ	55
セエチヨウ	54
ソウリユウ	54
ベストルーラー	54
リコウ	54
ナスノキク	53
リユウゲキ	52
パールボーイ	51
ビユーテイロツク	51
メジロタイカン	50
ヤマノイチ	50
五歳以上	
ミハルカス	61
ウメノチカラ	60
ハクズイコウ	60
ブルタカチホ	60
ヤマトキヨウダイ	59
ヤマドリ	57
フラワーウツド	56
クリベイ	55
スイートラペール	54
ダイセイオー	54
パナソニツク	54
フジイサミ	54
コキトールシガ	53
フジノホマレ	53
ライデン	52
ダイニシマユキ	51
トサイサミ	51
メジロオーザ	51
テルクイン	50
ミストヨペツト	50

関西

六十五年の中央競馬は関西勢がつきにつきまくり、クラシック・レースの大半をあざやかなバトンタッチで独占した。想えば春はキーストンの弥生賞快勝を皮ぎりに、ダイコーターがスプリングステークスとNHK盃を、サツキ賞は優勝馬チトセオーを含む上位を関西陣が奪い、ダービーは絶対人気のダイコーターが不良に泣くスキをついてキーストンが巧みに逃げ切った。

もしたかのごとく打倒を目指してやってきた関東馬を粉砕してみせた。

シンザンの三冠は昨年も後輩たちの活躍によってしっかり守られたわけだが、ことしも関西のクラシックホープは各きゅう舎にくつわを並べている。関係者の話では昨年以上に層が厚いとさえいわれている。

ことしの明け四歳馬は昨年からデビューしたモンダヴアルの初仔が目下好評を博しており、関東は暮れの朝日盃三歳ステークスにオス馬を倒して優勝したメジロボサツが抜群の成績をあげ、はやくも桜花賞候補の筆頭といい位を独走している。種牡馬ランキングが、ことしはどうやら新勢力によって新しく塗りかえられる年ともいえそうである。

話が横道にそれたが、関西の四歳は実に良血馬を兄姉に持つ逸材が揃っている。別に私が関西だからといって地元をひいきするわけではないが近年にない粒ぞろい。ざっとあげても、キーストンの弟**リユウミゴリ**（父モンタヴアル）は橋本正きゅう舎の切り札格。すでに暮れの新馬戦で手固く1勝。ダイコーターの妹セカイイチ（父テイエポロ）はメス馬に似合わず仕上りが遅れ、最近ようやく未勝